



比治山が広島湾に浮かぶ島だったころ、どんな名だったのだろうか。ここには縄文時代の貝塚が見つかっている。古くから人との関係があったのだから、島の名もあったはず、なんだ。

「比治山」という名は、丹後国風土記に、峰山町にある比治山の山頂にある池に天女が下りてきた神話にでてくる。天女の羽衣を隠した老夫婦との確執が語られている。その比治は水に関係ある名だと（谷川健一/民族・地名そして日本）ある。また九州・大分県に日出という町があり、国東半島の南の付け根の場所で、東に向かった所で、日の出を受ける場所だ。

水といえば、比治山の北に名水があって、この水で酒をつくっている。

海産物があって、水がある。そして朝日、夕日をうける場所。そこに名がないことは、ないはずだけど。

密かに、名をつけてみた。「ミャンコ島」捨て猫がいちばん威張ってます。



コースは、電車の停留所・比治山下の交番からの登りです。交番に時計もあって、便利。すぐあるお寺・多聞院と山陽文徳殿は被爆建物です。



コース地図



コースは最初の三叉路を左へ。行き当たると広場。現代美術館の正面へ左回りに回ります。正面をぬけて美術館にそってまわり、右にある橋をわたり、広場にでて奥の出口から車道へ。

 <p>交番から左カーブ</p>	 <p>三叉路を左</p>	 <p>ブロック積みの路面 ハリルーベ?</p>
 <p>現代美術館へ</p>	 <p>美術館前</p>	 <p>右へ陸橋を渡る</p>
	<p>広場から車道へ。いつの間にか、それまでであった段差をコンクリートでうめてありました。ありがたい、な。</p>	

車道を右へ。ハピカーブで第二駐車場の広場前に。また登りにかかるところに、見逃しそうな小道の入り口があります。掲載した地図で横道と記載したルートです。広場からS字で坂道になります。イキガケのダッシュって場所です。それよりも比治山の照葉樹林の森のなかの小道を、とおもったら横道へ入ってください。舗装路でちいさなアップダウンがつづきます。

 <p>第二駐車場への登り</p>	 <p>標識の後が横道の入り口</p>	 <p>車止めのある横道入り口</p>
--	--	--



横道から出たところ、車道のトップから下ったところは広場が二つあって、桜のきれいな場所です。研究所裏には、陸軍墓地があり、広島湾への展望がよい場所です。外国の兵士の墓もあって、いつも花は供えられています。展望の場所にはベンチもあります。



放射線影響研究所。昔は ABCC といってました。アメリカの研究施設でした。ここの車はステーションワゴンなんだと、大人たちは、すこしうらやましそうに、そして、すこし複雑に話してました。アメリカが市内を走ってるって感じでした。そのころから、アメリカが目標の国になったような？。アメリカみたいな便利な生活をしたくなったような？。



カボコ型の建物



研究所正面

研究所前で分岐があります。左は展望台へ。研究所にそって進むと下りにはいり、大きく右へまがって、交番からあがった三叉路に。



左へ入って、右へ大きくカーブしています。車もきますから、注意してください。



現代美術館に、喫茶店があります。美術館に入らないでも、利用できます。  
正面の石段を登ると、左手にあります。

